

開催概要

3P～6P

1 目的

高知県内に存在する歴史資源を磨き上げ、磨き上げた歴史資源や地域の食、自然などを一体的に周遊できるコース（観光クラスター）を整え、多くの誘客を図るとともに、国際観光にも対応できる持続的な観光振興につなげていく。

2 基本方針

「歴史」を中心とした、“本物のこうちに出会える”楽しさ満載の周遊型・延泊型の博覧会の展開

3 名称

※歴史を中心とした博覧会準備委員会において設定

4 期間

第一幕：平成29年3月4日(土)から第二幕開幕まで

第二幕：平成30年1月から平成30年12月まで

5 事業主体

県、市町村、観光関係団体により組織する推進協議会を設置し、官民協働により事業を推進する。

6 会場構成

H28.4.8現在

メイン会場

①県立高知城歴史博物館

②県立坂本龍馬記念館

サブ会場

③こうち旅広場

地域会場

④室戸世界ジオパークセンター

⑤中岡慎太郎館

⑥安田まちなみ交流館・和

⑦安芸市立歴史民俗資料館

⑧絵金蔵

⑨県立歴史民俗資料館

⑩県立美術館

⑪高知城

⑫県立文学館

⑬高知市立自由民権記念館

⑭高知市立龍馬の生まれたまち記念館

⑮いの町紙の博物館

⑯佐川町立青山文庫

⑰吉村虎太郎邸

⑱梶原千百年物語り

⑲四万十市立郷土資料館

⑳宿毛市立宿毛歴史館

㉑ジョン万次郎資料館

イベント

10P～11P

県内

- 県内各地域において、博覧会を盛り上げるとともに、訪れた方に楽しみを提供する。

①第一幕オープニングイベント ②第二幕オープニングイベント ③サブ会場イベント

④地域会場イベント ⑤各種イベント ⑥クロージングイベント

県外

- 全国的な盛り上がりをつくり出すため、県外の自治体や、民間企業・団体と連携。

(例) 平成の薩長土肥連合での共同イベントの開催

- 高知県にゆかりのある場所での開催。

プロモーション

12P～13P

【基本方針】 幕末・明治維新を全国に訴求し、かつ、本県に注目を集める仕掛けをつくる

全国的な盛り上がりを作り出す取り組み

- テレビ、新聞・雑誌等のマスメディアでの露出の拡大をはじめ、プロモーション自体が話題になるような取り組みを行う。

- ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を活用した取り組み、ポスター等PRツールの活用。

- 高知県、高知県観光コンベンション協会との連携による取り組み。

・観光客が、県内で地域情報を容易に取得できる情報発信や、観光サポートアプリを活用した情報発信。

・全国の様々な地域と連携した取り組み。（（例）平成の薩長土肥連合事業との連携など）

歴史資源の磨き上げ

周遊コースづくり（観光クラスターの整備）

歴史資源の磨き上げと観光クラスター整備の取り組みの概要

歴史資源の磨き上げ

15P~16P

歴史資源の磨き上げの取り組み

- 各地域における集客の中核となる施設と関連する人物、人物にまつわる物語、周辺の歴史資源などを一体的に関連付け、しっかりと磨き上げる取り組み（歴史資源のリアル化）を行うことで、地域地域に本物が感じられる歴史資源を整え、将来にわたって活用できる歴史観光の基盤整備に取り組む。
- こうした取り組みを進めるにあたっては、全国的な知見を持ったアドバイザーも活用しながら、各市町村と県が協働で歴史資源のリアル化計画を策定し、県の支援のもと、各市町村を中心に整備を進める。

歴史資源の磨き上げの考え方

- ア 施設周辺の資源も掘り起こし、施設とその周辺も含めて本物の歴史資源、史跡、資料等を見せること。
- イ 本物の史跡や展示物が、時代を超えてリアルに感じられるよう、時代背景や資源の持つ意味が連続性を持って詳細に説明されていること。
- ウ 対象者の年齢、嗜好、目的に応じた展示、解説ができていること。（外国人対応も含む。）

周遊コースづくり（観光クラスターの整備）

17P~20P

観光クラスター整備の取り組み

- 博覧会の取り組みを通じて磨き上げた歴史資源と、地域の「食」や「自然」などが一体となった周遊コース（観光クラスター）の整備を行う。
- こうした取り組みを進めるにあたっては、各市町村を中心に、広域観光組織や、民間事業者等が連携した協議会（観光クラスター協議会）を設置（高知市を除く。）し、全国的な知見をもったアドバイザーも活用しながら周遊コースの計画を策定し、博覧会終了後の継続可能な仕組みづくりにも取り組む。
- 広域での周遊コースの整備にも取り組む。

クラスター形成の要件

- ア 原則、歴史拠点やその周辺の観光資源で形成され、一体として運営できる仕組み（地域ごとの観光クラスター協議会など）ができていること。
- イ クラスター内を周遊できるしくみ（二次交通手段）を有していること。
- ウ 各施設（宿泊施設等、飲食店、体験プログラム、土産物店）等が連携し、相互に情報提供を行い、誘導ができること。
- エ 連携する飲食店や土産物店では、その地域ならではの「食」や「産品」を提供していること。
- オ 地域会場においては、外国人観光客への対応ができていること。

磨き上げた歴史資源と地域の食や自然などが一体となった周遊コースを整備し、博覧会後の持続的な観光振興につなげる